

8-4-16 交通・安全専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 交通・安全専門委員会の開催

委員会開催回数：10回

(8月、3月は休会)

(2) 自主研究

令和元年度は、『イベント時における交通・安全に関する調査研究』を主テーマに2つのサブテーマを設定し、交通・安全に関する技術向上と新たな市場開拓に向けて実施した。

自主研究はサブテーマ毎にワーキングを設置して進めた（【WG①：2020東京オリンピック・パラリンピックにおける交通・安全に関する取り組み】、【WG②：観光・イベント時の安全・快適な交通の確保に関する研究】）。【WG①】では過去の大規模イベント時における輸送計画、ハード・ソフト施策等の事例、また東京オリンピック・パラリンピックにおける輸送計画、ハード・ソフト施策等の事例、安全面からみた課題等を整理した。【WG②】では主な観光地及びイベント時における交通システム、安全対策、案内誘導等の事例を整理した。

なお、本自主研究テーマは、令和元年度、2年度の2ヶ年でのとりまとめを予定しており、令和元年度は中間段階として位置付け、令和2年度に最終成果としてとりまとめる予定である。

(3) セミナーの開催

「観光地における交通の現状と今後の道路施策について」をメインテーマとして開催した。

a) 開催日：令和元年11月22日（金）

b) 参加者数：47名

c) 講演①：国土交通省道路局企画課様より「観光地における交通の現状と今後の道路観光施策について」として講演を頂いた。

d) 講演②：鎌倉市共創計画部交通政策課様より「鎌倉市の現状とこれまでの取り組みに

ついて」として講演を頂いた。

(4) フィールドワークの開催

令和元年度の自主研究テーマを踏まえ、「伊豆地域観光型 Mass 社会実験」に関する現地説明会

a) 視察会に参加し、観光型 Mass への取り組みや今後の展開等の情報収集を行った。

b) 開催日：令和元年12月19日（木）

c) 視察箇所：静岡県下田市

(5) 最新関連情報の収集

交通・安全に関わるトピック的な事項について、今後の展開方向、建設コンサルタントとしての関わりなどを議論している。令和元年度における主な内容は以下のとおりである。

a) ITS・自動運転の動向

b) Mass の動向

c) 新たなモビリティサービスの動向

d) 高齢者等の交通安全対策の動向 等

(6) 外部組織への活動支援等

a) 国交省大学 道路交通安全〔事故対策コース〕への講師派遣

2. 次年度の活動について

令和2年度は、令和元年度からの継続研究（最終年）として、『イベント時における交通・安全に関する調査研究』を自主研究のメインテーマとして活動し、最終成果としてとりまとめる予定である。

また、研究テーマの内容に合わせてセミナー、現地見学会、フィールドワーク等を実施する予定である。

(交通・安全専門委員会委員長 福島 賢一)